

テーマ

ふるさとの伝統にふれよう～こいのぼりで町づくり～

事業実施地区（中学校区名）	松江市立八雲中学校
事業実施公民館等名 （中学校区内にある全ての公民館等）	松江市八雲公民館

テーマの背景

八雲町では、平成 2 年から 24 年までの間、地元有志により町内を流れる意宇川の上を渡す、川渡し鯉のぼりが行われていた。

一度途絶えたが、平成 27 年より地元の若手団体が復活させ、八雲町の春の風物詩となっている。こうした背景の中、公民館を中心に八雲町の多年代の方に鯉のぼり事業に関わってもらい、鯉のぼりを基軸として八雲町の町づくりを行っていく。

実際の取組

⑤ふるさとの「ひと・もの・こと」を次世代に伝え、守っていく活動の実施

事業名 親子で作ろうこいのぼり

<取組の概要>

近年、伝統や風習が簡素化される傾向にあり、八雲でも鯉のぼりを自宅に掲揚する家庭が減少し、子どもが伝統に実際に触れる機会が減っている。今回は、地元で活動している八雲ゆう人会を主体に、松江市内の親子を対象に手作りこいのぼりを作成するワークショップを開催した。作成した鯉のぼりは平成 31 年 4 月 21 日～5 月 18 日に開催予定の「八雲ゆう遊こいのぼり」事業にて実際に掲揚する。今回は講師に松江市在住のよしと氏を招き、親子で一緒に楽しくこいのぼりを作成し伝統に触れてもらい、その後、参加者の交流の場として昼食会を企画した。

<成果と課題>

実際に鯉のぼりを親子で作成することで、それまで見るだけであった「鯉のぼり」を身近に感じてもらい、世代を超えて日本の伝統に触れることができた。また地元の鯉のぼり事業への関心も高まり、ふるさとへの愛着、地元での活動の推進にもつながっている。

課題として、ワークショップなどのイベント以外にも住民に関わってもらおうアプローチやPR方法を考え、更なる事業の深化、活動の推進を図っていきたい。



⑤ふるさとの「ひと・もの・こと」を次世代に伝え、守っていく活動の実施

事業名：八雲多年代で紡ぐ鯉のぼり

<取組の概要>

1つの鯉のぼりを八雲在住の多世代が関わり作成する。

はじめに八雲中学生が白地の生地を鯉のぼりの形にする。次に、その鯉のぼり生地に八雲町内の幼稚園、保育園の園児が、色塗りを行う。仕上げに、鯉のぼりの縫製を八雲町高齢者クラブに依頼する。

八雲町の子供から高齢者で紡いだ手作り鯉のぼりの掲揚を平成31年4月21日～5月18日に開催予定の「八雲ゆう遊こいのぼり」にて掲揚する。多世代が本事業に関わることにより、八雲地区住民で鯉のぼりを通じた「まちづくり」に取り組む。

<成果と課題>

八雲町内の子供から高齢者までが「鯉のぼり作り」を通して多世代が交流し、鯉のぼりを中心とした町づくりの機運を高めることが出来た。

課題として、今回はそれぞれが別々のタイミングで作成したため互いに顔を見る機会もなかったため、今後は一緒に作業をする機会を設け、更なる一体感の高まりを創っていききたい。



まとめ

テーマに迫るためのポイント

多面的な活動としていく為に、「鯉のぼり」を活動の軸として公民館だけでなく、多くの方や団体（八雲ゆう人会、「よしと」さん、八雲青少年育成の会、地元幼稚園、保育園等）と連携して事業展開したことにより、多くの方や年齢層にアプローチを行うことができ、ふるさとへの愛着を形成していくきっかけづくりとなった。

今後の展望

八雲町内は、学校との連携・協力も取りやすく、中学校年代までは関わりが非常に強い。しかし、子どもが高校生になると、学校も近くにないため、学校とは疎遠になりやすく、地元事業への関わりが薄くなってしまふ。高校生世代の関わりが途切れないよう、今後は他団体の連携・協力も得て、SNS等を活用し情報発信も工夫しながら、高校生世代が参加できるように仕掛けを作りたい。